

公益財団法人日本医療機能評価機構
医療の質向上のための体制整備事業（厚生労働省補助事業）

第5回 運営委員会
（医療の質向上のための協議会）

2021年1月29日（金） 10:00 ～ 12:00
公益財団法人日本医療機能評価機構 オンライン会議

委員出欠状況 (50音順)

	委員名 (敬称略)	所属	役職	出欠	備考
1	石川 直子	独立行政法人地域医療機能推進機構	理事	出	
2	岡田 千春	独立行政法人国立病院機構	審議役	出	
3	草場 鉄周	医療法人北海道家庭医療学センター	理事長	欠	
4	楠岡 英雄	独立行政法人国立病院機構	理事長	出	委員長
5	桜井 なおみ	キャンサー・ソリューションズ株式会社	代表取締役社長	出	
6	佐藤 朗	独立行政法人労働者健康安全機構	理事	出	
7	永井 庸次	公益社団法人 全日本病院協会	常任理事	出	委員長代理
8	橋本 省	公益社団法人日本医師会	常任理事	出	
9	窪地 淳	公益社団法人全国自治体病院協議会	参与	出	原委員代理
10	嶋田 元	学校法人 聖路加国際大学 情報システムセンター	センター長	出	福井委員代理
11	松原 了	社会福祉法人恩賜財団済生会	理事	出	
12	松原 為人	全日本民主医療機関連合会	理事	出	
13	矢野 諭	一般社団法人 日本慢性期医療協会	副会長	出	
14	矢野 真	日本赤十字社 医療事業推進本部	総括副本部長	出	
15	吉川 久美子	公益社団法人 日本看護協会	常任理事	出	
16	堀田 聰子	慶応義塾大学大学院 健康マネジメント研究科	教授	欠	ア〃バ〃イ〃-
17	宮田 裕章	慶応義塾大学医学部 医療政策・管理学教室	教授	欠	ア〃バ〃イ〃-
18	渡辺 昇	ヒューマンウェア・コンサルティング株式会社	代表取締役	出	ア〃バ〃イ〃-

関係者出欠状況

QI活用支援部会／QI標準化部会（敬称略）

19	尾藤 誠司	独立行政法人国立病院機構 東京医療センター臨床研修科	医長	出	部会長
20	の場 匡亮	昭和大学大学院 保健医療学研究科	准教授	出	部会長

厚生労働省医政局総務課（敬称略）

21	谷村 忠幸	保健医療技術調整官		欠	
22	渡邊 周介	課長補佐		出	

公益財団法人日本医療機能評価機構

23	上田 茂	専務理事		出	
24	橋本 迪生	常務理事		出	
25	亀田 俊忠	理事		出	
26	横田 章	事務局長		出	
27	高島 昇	事務局次長		欠	
28	菅原 浩幸	統括調整役		出	
29	神保 勝也	評価事業推進部 副部長		出	
30	實川 博己	評価事業推進部企画課 課長代理		出	
31	中田 祐太	評価事業推進部企画課 主任		出	
32	浅野 由莉	評価事業推進部		出	

議事次第

1. パイロットの対応方針について
2. 今後の事業展開について
3. 作業部会での検討状況について
4. 2021年度事業計画（案）について
5. その他

1. パイロットの対応方針について

現状と今後の対応について

- 各団体のご尽力により18病院の推薦をいただいた（1月28日現在）。
【糖尿病】…8病院、【脳卒中（脳梗塞）】…5病院、【THA／BHA】…5病院
- 一方、昨今の新型コロナウイルス新規患者の急増とそれに伴う各医療機関の状況を踏まえ、**パイロットの延期等について再検討を求める意見**が一定数ある。
- 医療現場の負担を軽減する観点から**“延期等”**（次年度の適切な時期に開始）を検討してはどうか。

対応

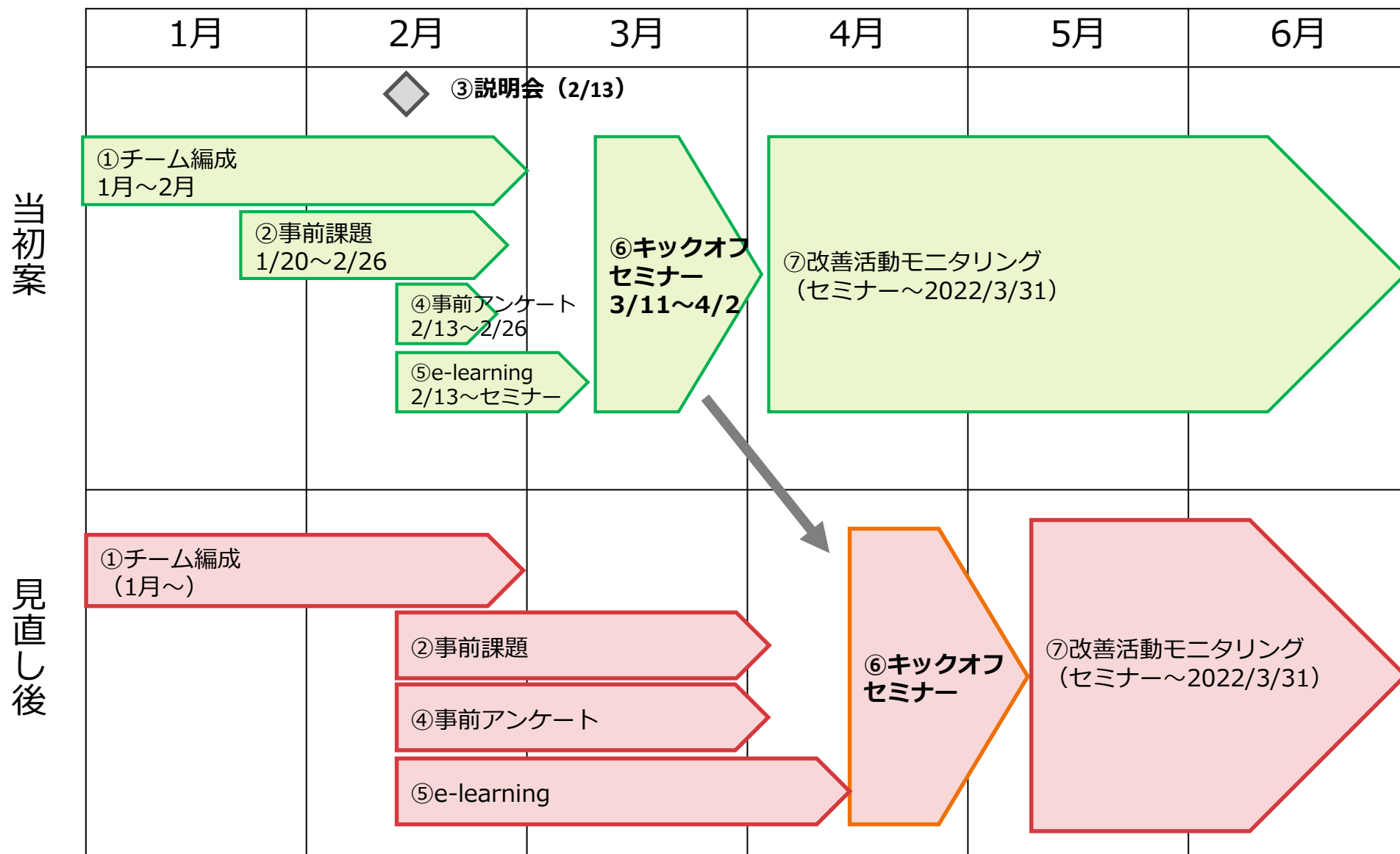
論点等

実施	・ 平時とは異なる状況であるため、当初目的（成果物の作成、協力病院間のネットワーク構築、事例収集・各種検証）を達成させることができるのか。 ・ 今後、同様な状況（新規感染者急増等）が発生した場合の対応をどうするか。
延期	・ 再実施の判断をどのように考えるか。 ・ 当初計画する期間（1年間）が短縮するため、今後の進め方をどうするか。 ・ 今後、同様な状況（新規感染者急増等）が発生した場合の対応をどうするか。

パイロットの実施方針（案）

- パイロットの実施スケジュールを見直し、キックオフセミナーを来年度に再延期してはどうか。
 - パイロット説明会（2/13；QIコンソーシアムを兼ねる）は実施する。
 - 3月に実施予定のキックオフセミナーを4月中旬以降に延期する。なお、再開時期については3月上旬～中旬を目処に総合的に判断し決定する。
 - また、キックオフセミナー実施前（後）にパイロットの継続参加について、病院の意向を確認する。なお、短期間で改善活動の経過や成果を評価・検証できる方法を並行して検討する。
- 再延期後のパイロット実施方針を原則、実施可能な範囲で継続するとしてはどうか。
 - 対応は当初計画する方法のみならず他の手段など、状況に応じた柔軟な方法を検討しパイロットを継続する。
 - なお、今後の状況により計画するパイロットの実施が困難となった場合は、その時点の進捗状況を考慮し、以降の対応について検討する。

パイロットスケジュール（案）



2. 今後の事業展開について

本日の検討事項

第4回 運営委員会（2020年12月10日開催）に引き続き、今後の事業展開における方向性を以下2つの論点でご検討いただきます。

1. 医療の質指標を活用した質改善活動の普及・促進について（継続審議）
2. 医療の質指標の標準化・公表のあり方について（継続審議）

本日の検討事項①

再掲：第4回医療の質向上のための協議会資料
(2020年12月10日開催)

(医療の質指標を活用した質改善活動の普及・促進について)

- 先行事業（医療の質の評価・公表等推進事業）に参加する約1,000病院において、医療の質指標を活用した改善の取組が進められている。
- 一方、参加病院の伸び悩みを課題とする協力団体が一定程度ある。
- そこで、**医療の質指標を活用した質改善活動の全国的な普及・促進を図るため、以下の施策を講じることとしてはどうか。**

施策案

主な対象（想定）

#1	マニュアル周知	現在検討する 改善支援パッケージ（手順,マニュアル等）を全国に一斉周知 し、指標を活用した質改善活動に役立てていただく。	全国の医療機関
#2	PDCA事業	参加病院を募り、共に質指標を活用しながらPDCAサイクルを実施 し、参加病院間の交流を通じて質改善を促進させる（パイロットの手法を活用する想定）。	・先行事業（医療の質の評価・公表等推進事業）に参加するが活動が滞っている医療機関又は質改善までには至らない医療機関など
#3	研修事業 （管理者／実務者）	管理者及び実務者を対象に 質指標を活用した質改善についての研修を展開 する。 なお、研修内容はPDCA事業で提供する内容を想定。	・質改善に関心はあるがどう行動すればよいか分からない医療機関など ・その他希望する医療機関
#4	情報共有	以下についてQ I コンソーシアムを通じて共有する。 ・ 医療の質指標 （2020年12月10日現在、733指標を収集し公開中） ・ 質指標を活用した事例及び蓄積されたノウハウ	全国の医療機関

今後の方向性

(医療の質指標を活用した質改善活動の普及・促進について)

- 病院のニーズに応じて必要な施策（マニュアル周知, PDCA事業, 研修事業（管理者/実務者）, 情報共有）を提供することとする。
- なお、まだ医療の質の計測に取り組んでいない病院に対しては、好事例に関する情報を提供し、関心を喚起する。

<前回（12/10）の主なご意見>

- トップマネジメント層を含め、QIの質向上事業の目的を共有することがとても大事である。
- 何となく数値だけを出して横比較し公開されてしまうと捉えられると誰も参加しない。自院の医療の質向上のための試みであるということを、もっと伝えられないか。
- 多くの病院を巻き込んでいくには、地域、規模、機能に合わせた好事例をきめ細かく情報提供を行い機運を高めることではないか。
- 医療の将来にとって質改善が重要であるということが理解される広報活動が必要ではないか。
- 測定せずに改善はできないので、測定の理解を高める情報共有の在り方を検討すべきである。
- 人手とお金の問題を解決していかないと浸透していかないのではないか。
- 外部からの技術的な支援や診療報酬等の支援も必要ではないか。
- 自院の状況に応じた質指標を選択でき、公開することでモチベーションを保てるような方法論が必要ではないか。

好事例の収集は、各団体で集積された事例をご提供いただき整理することでどうか。また、“関心”を“行動（質指標を用いた改善活動の実施）”に繋げるためには、その他どのような方策があるか。

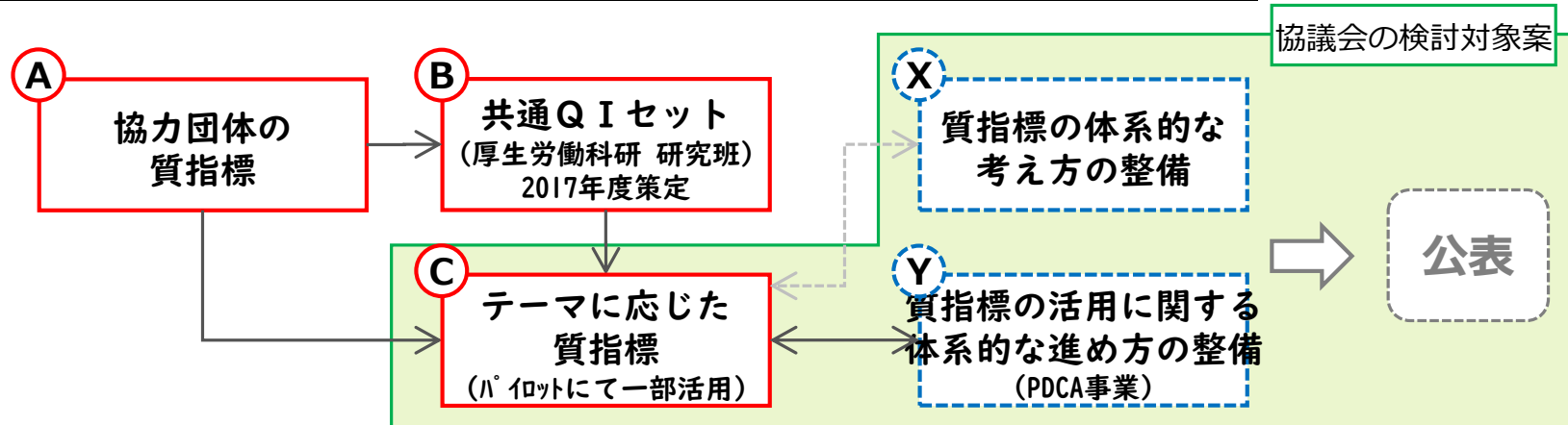
本日の検討事項②

再掲：第4回医療の質向上のための協議会資料
(2020年12月10日開催)

(医療の質指標の標準化・公表のあり方について～検討の流れ(案)～)

- 現在、細部の定義等は異なるが複数の協力団体に類似した質指標が相当数存在する(血糖コントロール, 早期リハビリテーション, 満足度 など)。
- また、厚生労働科学研究 研究班において“共通Q I セット”が開発され、先行事業に参加する一部の協力団体に適用がされている。
- そこで、**質指標の標準化・公表のあり方については、現状を踏まえ以下のような整理で検討を進めてはどうか。**

「医療の質指標の標準化・公表に向けた」整理及び検討の流れ(案)



課題①

共通Q I セットの見直しをどのように考えるか?

課題②

パイロットで扱った指標を今後どのように扱うか?

本日の検討事項②

再掲：第4回医療の質向上のための協議会資料
(2020年12月10日開催) を一部改変

(医療の質指標の標準化・公表のあり方について～考え方の整備～)

- 現在、多種多様な質指標が設定・運用されるが体系的な考え方（質指標の新設, 改廃, マスタ整備, 評価・公表の方法など）が存在しない。
- 本事業を契機にこれまでの取組をもとに、**医療の質を適切に測定するための質指標の望ましい要件や運用方法等を取りまとめた文書を作成してはどうか。**
- また上記文書は、全国の施設に医療の質指標の考え方や活用方法を**普及・促進するためのツール**として利用してはどうか。

(想定イメージ)	国内				海外		
	A団体	B団体	C団体	・・・	X団体	Y団体	Z団体
目的							
対象範囲							
体制（開発・運用）							
運用サイクル							
・・・							

医療の質指標
開発・**保守**ガイド
(仮称)

202x年xx月
医療の質向上のための
協議会

今後の方向性

(医療の質指標の標準化・公表のあり方について)

本会の質指標に関する考え方を取りまとめ、質指標における理解、活用の促進及び指標開発のツールとして活用されることを目標とする。

<前回(12/10)の主なご意見>

□ 議論の進め方

測定, 質改善, 公表, ベンチマーク評価は、関連あるが別のステップであり、区別しながら説明していく必要がある。

□ 医療の質指標の標準化のあり方

- 定義等を厳密に行うことではなく、各病院の状況に応じたモディファイも必要である。
- ガイドは、多くの関係者が重要性を理解することを可能とするのではないか。
- これまで1秒で判断していたことを、1日程度かけて理論づけを行うようなイメージがある。

□ 医療の質指標の公表のあり方

- 公開して患者が知ること、改善のスピードを速めることが可能なのではないか。
- 質指標の数値が幾つになったということではなく、数値を向上させるためのプロセスを共有することが重要ではないか。数値結果だけでなく、プロセスも一緒に公表することが必要である。

事業目的	現場の自主的な改善活動を充実させる。	医療の質を可視化し信頼性を向上させる。
実施要綱	・ 医療の質向上のための具体的な取り組みの共有・普及 ・ 医療の質向上活動を担う中核人材の養成	・ 医療の質指標の標準化のあり方の検討 ・ 医療の質指標の評価・分析支援
狙い	医療の質指標を活用した質改善活動の活性化 (PDCA)	医療の質指標の設定・計測の普及、促進
成果物 (ツール等)	・ 質改善実践マニュアル ・ 質改善支援運用マニュアル ・ 人材養成カリキュラム	・ 医療の質指標開発・保守ガイド(仮称) ・ 既存指標の整理(事業オフィシャルサイト) ・ 例示指標ライブラリ
詳細検討	QI活用支援部会	QI標準化部会

“医療の質指標開発・保守ガイド（仮称）”

目的及び対象について

＜目的＞

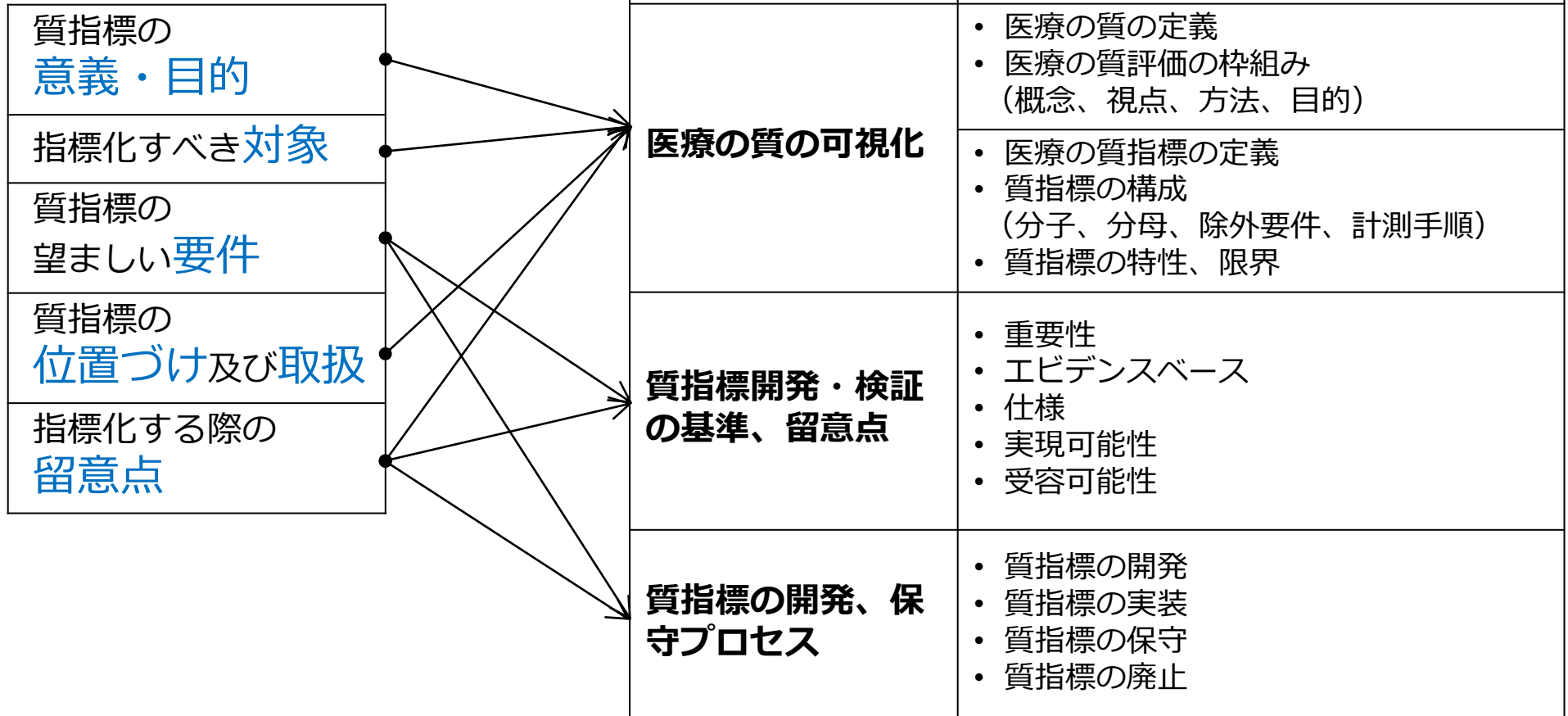
- 医療の質を可視化し、信頼性を向上させるための指標とはどうあるべきか、我が国における医療の質指標の基本的な考え方、指標の開発・保守方法等を体系的に整理する。
- “ガイド”を通じて多くの医療機関が医療の質指標の理解を深め、指標を活用した質改善活動を普及させる。

＜対象及び活用イメージ＞

対象	活用イメージ
医療機関、病院団体、専門学会等の医療の質指標開発・保守の担当者	● 質指標の開発の際の指針 ● 開発した質指標の検証 ● 質指標の開発・保守体制構築の参考 ● 診療ガイドラインに基づく質指標の開発
その他、医療の質指標に興味・関心がある方。	● 質指標の理解を深めるための参考資料

ガイド構成要素（イメージ）

第4回医療の質向上のための
協議会（提示案）



※医療の質指標の活用（PDCAに基づく質改善、ベンチマーク、公表など）については、他のマニュアルを参照

3. 作業部会での検討状況について

これまでの検討状況（2021年1月29日時点）

	会議開催日等	主な議題
QI活用支援部会	4月～6月末	成果物の作成及び作業方針策定
	7月2日	今年度の活動に向けて
	7月～10月末	コンテンツ作成・レビュー（e-learning）
	11月21日,27日	コンテンツブラッシュアップ作業（プレ研修） ・ 埼玉協同病院様, 練馬総合病院様, 昭和大学江東豊洲病院様にご協力。 ・ チームの現状分析／指標データ記述のためのシミュレーション／パイロット適用指標の測定結果の評価・分析／改善計画立案 など。
	12月16日	研修プログラムの修正
QI標準化部会	4月23日	パイロット実施に向けた指標の考え方
	5月27日	パイロットで使用する指標の選定方針①
	6月15日	パイロットで使用する指標の選定方針②
	6月22日	パイロット適用指標の選定①（“糖尿病”）
	7月17日	パイロット適用指標の選定②（“人工股関節置換術：THA”）
	8月7日	パイロット適用指標の選定③（“脳卒中”）
	8月20日	パイロット適用指標の最終化（“糖尿病”, “脳卒中”, “THA”）
	9月～11月末	計測手順書（案）作成・レビュー（パイロット適用指標） パイロット適用指標（計15指標）における計測手順及び解説等を各協力団体が利用する手順書をもとに整理、作成。

4. 2021年度事業計画（案）について

事業計画（案）の今後の流れ

- 本日、事業計画（案）をご審議いただいた後、ご指摘を踏まえて評価機構理事会用「事業計画（案）」および、厚生労働省用「企画書」の様式に整備する。
- 「企画書」が採択された場合に、次年度事業が実施できる。

昨年度を参考にした
想定スケジュール

1月29日（金）	運営委員会（協議会）で事業計画（案）をご審議いただき、 ご指摘を踏まえて修正	
	↓	↓
2月	日本医療機能評価機構理事会用の 事業計画（案）の様式に整備	令和3年度事業公募要領が発出され たら、公募要領に沿って「企画 書」を作成
3月5日（金）	日本医療機能評価機構・理事会で の審議	
3月中旬頃		厚生労働省に「企画書」提出

（１）本事業の目的

医療の質向上のための体制整備事業は、医療の質向上のための具体的な取組の共有・普及、医療の質指標を用いた質改善活動を担う中核人材の養成、根拠に基づく医療を実践する等のための医療の質指標の標準化、評価・分析支援等を通じて、医療の質向上のための体制を整備することを目的とする。

（２）本事業の運営体制

ア、医療の質向上のための体制整備事業運営委員会（医療の質向上のための協議会）の運営

本事業の円滑な実施を図るため、運営委員会（医療の質向上のための協議会）を開催し、必要な事項について審議する（4回/年）。

イ、部会の運営

QI活用支援部会およびQI標準化部会を開催し、関連事項を検討・実施する。必要に応じて合同で部会を開催する。また、QI標準化部会のもとに成果物作成のためのワーキンググループを編成し検討する（部会各6回/年、WG6回）。

ウ、医療の質向上のためのコンソーシアム（QIコンソーシアム）の運営

QIコンソーシアムは、本事業に参加する医療機関等から構成される活動の場（コミュニティ）をいう。QIコンソーシアムでは、医療機関等が質改善活動を実践し、事務局はそれらの活動を支援する。また、活動報告会を開催し、好事例等の共有を行う（1回/年）。

(3) 事業内容

以下の事項について運営委員会であり方を検討し、その議論を踏まえてこれらの取組みを適切に行う体制を整える。

ア、医療の質向上のための取組みの共有・普及

具体的な改善テーマに応じた医療の質指標を活用し、複数の病院が共に年間を通じて改善活動を行う取組を試行する（以下「パイロット」という）。パイロットでは、統一したプロセスで質改善活動を進め、活動の経過および成果等を参加する病院間で共有する。また、これら取組みを整理し、オフィシャルサイト等を通じて全国の医療施設に情報提供を行う。特に、医療の質指標の計測に取り組んでいない病院に対し質向上における指標活用の有用性を広報し、取組みの普及に努める。

なお、試行後は振り返りを行い、医療の質指標を活用した改善活動と情報共有の手法を確立しマニュアルに取りまとめる。また、更なる取組みの共有・普及を進めるために、一連の手法を用いた事業化の検討を進める。

イ、中核人材の養成

パイロットに協力する病院の多職種チームを対象に「質指標を用いた医療の質の測定と質改善活動」に関する研修を実施する。研修は、基礎知識の習得を目指す講義と実践的なスキル、ノウハウの習得を目指す集合研修で構成し、全てオンラインで実施する。研修受講後は自主的な質改善活動を通じた知識・スキルの定着を目指す。なお、研修終了後は、研修効果などを確認し、研修内容やプログラムの改訂作業を行い、より適切な研修プログラムを取りまとめる。

ウ、医療の質指標の標準化

医療の質指標を活用する一連の工程を「測定・評価」、「改善」、「公表」などのステップに分け、それぞれの工程における標準化の意義やメリット・デメリット、質指標の扱い方等を整理する。最終的にはそれらを組み合わせ、医療の質指標における標準化のあり方として、一定の結論を得る。

また、上記の検討結果に加え、昨年度取り組んだ医療の質指標の意義・目的、対象、望ましい要件、位置づけ、扱い等に関する考え方を体系的に整備する作業を継続し「医療の質指標開発・運用ガイド（仮称）」を取りまとめる。

なお、「医療の質指標開発・運用ガイド（仮称）」はオフィシャルサイト等を通じて全国の医療施設等に情報提供を行うほか、パイロットで取り扱った質指標の検証に使用し、必要に応じて質指標の定義等の見直しを検討する。

エ、医療の質指標の評価・分析支援

○管理者層への啓発

主に医療の質指標の計測に取り組んでいない病院の管理者層を対象に、改善事例に関する情報共有やQIコンソーシアムへの参加の推奨など、医療の質指標を活用した質改善活動の啓発活動を企画・実施する。

○疑義照会への対応

パイロットに協力する病院が、定期的な計測が円滑に実施できるよう、疑義照会への対応やコード表の更新作業などを行い支援する。

5. その他

第2回医療の質向上のためのコンソーシアム

～ 医療の質指標を活用した病院マネジメント～

日 時

2021年2月13日(土)13:00～16:30

開催形式

Web開催(Zoomウェビナー)

※後日、YouTubeでアーカイブ配信予定

参加対象

医療の質指標を活用した質改善活動に意欲のある医療関係者の方、報道機関の方など

定 員

500名

プログラム

【第1部】医療の質向上のための体制整備事業 事業報告

- 委員長挨拶／本会の趣旨説明
- 事業背景の説明
- 事業概要およびパイロット概要説明
- QI活用支援部会報告／QI標準化部会報告

【第2部】医療の質指標を活用した病院マネジメント

- 事例紹介(4事例)
 - PXを用いた医療の質評価・改善
 - 医療の質指標の活用(海外・国内・病院経営)
- 質疑応答 & 意見交換



申込期限:2月5日(金)
17:00まで